

ルーサン(アルファルファ)の品種

畜の嗜好の点から、極めて優れた牧草であることは周知の事実であるが、外国特に米国では、よりよきルーサンを求めて多年に亘り品種の改良が続けられ、最近では数多くの優秀品種が普及の段階に入っている。米国におけるルーサン品種改良の目的は、耐病性（特に細菌性萎凋病に対する耐病性）耐寒性並びに多収性（種子と生草）に置かれ、それぞれの観点から特徴ある品種が作られているが、中でもルーサン普及の当初、普及の障害の原因となつていた冬損と病害に対して、耐寒性「グリム」種、耐病性「レンジャー」「バッファロー」種が出現するに及び、ルーサンの栽培地域及び面積が、急速に増加したことは極めて興味ある事実であろう。

別表に江原氏「飼料作物学」、アメリカ農務省「グラス」を基として、現在まで知ら

細菌性萎凋病は日本ではいまだ栽培面積も少く発生を聞かないが、将来問題となるのであるが概ね参考にするに足ると考えれる。

可能性があるので附記した。なお今後日本で有利に利用されるのではないかと思われる品種は〇印を附しておく。従来栽培されている所謂在来種はそれぞれの特性に応じて切り換えられて行くべきであろう。